

| 特集 |

三重大大学の知を社会へ

CONTENTS

- [View of This issue]
- 01 情報発信を通じた地域貢献
● 理事 | 後藤正和
- [特集 / 対談]
- 02 三重大大学の知を社会へ
● 三重テレビ放送代表取締役社長 | 志田行弘 + 学長 | 内田淳正
司会 | 理事・副学長 | 鈴木宏治
- [RESEARCH FRONT]
- 08 国際社会の急激な変化に対応した法の発展を目指して。
● 人文学部教授 | 洪 恵子
- 10 感染・炎症関連発がんの分子機構の解明とバイオマーカーの探索。
● 大学院医学系研究科教授 | 村田真理子
- 12 住宅構法の変遷を明らかにし、木造住宅の耐震性能の向上に取り組む。
● 大学院工学研究科助教 | 田端千夏子
- 14 植物の生理生態の解明を通じて環境変化による影響を予測したい。
● 大学院生物資源学研究科講師 | 松尾奈緒子
- [CLOSE-UP Interview]
- 16 言葉にできない子どもたちの心を見つめ、課題の解決を支えたい。
● 教育学部准教授 | 岡田珠江
- [連載] CHRONICLE OF MIE VOL.5
- 18 【文学編】 人情の機微を描いた映画監督、小津安二郎。
● 人文学部教授 | 尾西康充
- 20 【美術編】 「伊勢両宮曼茶羅図」
● 教育学部教授 | 山口泰弘
- 22 TOPICS
- 24 2009年6月～12月 三重大大学の主な出来事



情報発信を通じた地域貢献

理事
後藤正和

三重大大学は、1949年（昭和24）5月に、三重師範学校・三重青年師範学校の流れをくむ学芸学部と三重農林専門学校を引き継いだ農学部とが一つとなって、三重県最初の4年制大学として誕生しました。以来、人文・教育・医・工・生物資源の5学部と独立大学院研究科である地域イノベーション学研究科を含む6研究科に発展、拡大を続け、今年、開学60周年の節目を迎えることができました。

この間、およそ52,000名の学部卒業生と8,400名の大学院修了生（修士・博士）が巣立ち、国や地方自治体、公共団体の職員、民間企業人、教員、農林水産業関係者、医師、看護師、保健師などの医療関係者、研究者や大学教員として地域や社会のために活躍しています。現在の在学人数は、学部生6,200名、大学院生1,223名で、その中には海外協定大学50大学などから264名の外国人留学生も学んでいます。これも、社会・地域のご支援や期待があつてのことと感謝いたしております。

三重大大学は、これからも教育や研究を通じて社会・地域の発展に貢献できるように努めることは当然として、さらに、地域社会やそこに暮らす人々に直接的に貢献できることを目指しています。つまり、“知の拠点”としての役割を充実、向上させようとしています。そのためには、普段の教育研究活動の中から、社会が求める新しい情報を発信することが必要となりますし、地域にとって有益となりうる優れた知の創造活動を、よりわかりやすく、オンタイムで伝える仕組みについても工夫しなければならないと考えています。

東海3県下、およそ280万世帯、780万人を放送エリアとする地元民放の三重テレビをはじめ、さまざまなマスメディアとともに、三重大大学の知を発信・配信できる連携のあり方、仕組みについて協力し合うことができれば、自然や環境、歴史や文化に恵まれて日本一住みやすい地域の活力の源となるものを、より一層充実させて提供できるものと確信しています。

ごとうまさかず
農学博士
専門分野は、創科学・草地理学

